

To: mi

RS 05398
Cincpac-Cincpoa
B- 26981
OKINAWA 24 JULY

一月二十二日空襲戰鬥詳報

昭和三十年一月
五號第六十號

156450
24219

一敵機未龍前、状況

1. 軍情報ヲ綜合シ敵機動部隊ハ二月二十日下ニ度一三度E二四度一

一二二度附近海面ヲ遊ヤシアルヲ知ル

2. 一月二十一日二三〇左記電報ヲ受領ス

記

(一) 〇八〇〇一〇八三〇ノ間 〇九一機沖繩本島ヲ偵察高度一萬米

(二) 〇九一〇小型機四機宮古島ニ未龍

3. 軍ハ一〇二五ノ南西諸島全地区ニ西號戰備下令ノ電報ヲ二四日受領ス

4. 守備隊長ハ右西號戰備ヲ各隊ニ傳達シ(離島ハ電報)對空對潛

警戒戒ニ遺遺憾ナキヲ期スルト共ニ軍需品及陣地ノ秘匿等ニ努ム

5. 一三三〇及一五〇八(軍ヨリ左ノ西女目ノ電報ヲ受領ス)

(一) 一三三〇小型機十三機小綠飛行場ニ未龍目下判明セル戰果

殺子隊一沖繩本島地区被害ナレ

(二) 一三三〇宮古島敵編隊進入中

6. 守備隊ハ愈々警戒戒ヲ嚴ニス

一月二十二日一〇〇一大北地区隊長ヨリ海軍ヨリ通報ニ依ル南方ヨリ敵機ヲ見テ侵入ハ五五大北地区空襲警報ノ旨電報ヲ受

二 天候 氣象 状況

德之島ハ二五〇伏晴ニテ日曇雲 高層雲 九 雲高 高層雲二五〇米 層積雲 七 雲高 層積雲二〇〇米 視程ニテ九〇ノ風四本 日出七二五 日没一七一四 月出一二二七 日没〇一八 午前満潮〇一三〇 午潮〇七四〇 午台満潮一〇〇〇 午潮二一〇五

二 敵機來襲状況 邀撃戦闘及飛行場補修状況

ハ五〇敵艦載機グラマンハ機高度約四〇〇〇ニテ同島上空ニ侵入シ九〇ヨリ主トシテ海軍飛行場等ヲ銃爆撃シ海軍高角砲ハ一試ニ撃墜ス 〇九一五 西方ニ脱去ス

誘撃ニ依リ陸軍、被害ナカリモ海軍飛行場ニ輕微ナル損害アリ 間ニ損害ハ死亡ニニ、負傷九家屋全壊ニ三半壊ニハ 艦船大破一(船員一行衛不明) 馬爆死三ナリ

2. 大島本島地区

第一次 〇九ニ敵艦載小型五機侵入一隊ハ〇九ニ六名瀬港外ニ坐礁中ノ船舶ニ銃爆撃ヲ行ヒ他一隊ハ〇九三三ヨリ小湊沖及伊須湾沖等ニ於テ航行中ノ機帆船ニ對シ銃爆撃ヲアレ一〇一〇 脱去ス

第二次

一五三六大島海峡南方ヨリ艦載七機侵入赤尾木及請島東方海上航行中ノ機帆船ニ銃爆撃ヲ加ヘ一六〇八南方ニ脱去ス

3. 德之島地区

一〇〇五艦載グラマン四機德之島北方天城山嶽上空ヲ越ヘ高度約二〇〇〇米ニテ侵入投彈スル事ナク南方ニ通過ス 守備隊長ハ直ニ左記ノ如ク空襲警報ヲ発令シ電報ヲ以テ軍ニ報告ス

- 一 空襲警報發令 一〇〇五
- 二 奄美守備隊長
- 三 敵グラマン四機德之島上空ヲ北ヨリ南ヘ通過セルニ依ル 尚十時德之島山嶽ニ航機豫定ナリ 沖永良部島行和泊丸

ニ出港待テラ命

一ニ二五守備隊長ハ空襲ノ旨少キニ依リ空襲警報ヲ解除シ
軍ニ報告スルト共ニ和泊丸ニ出帆ヲ許可ス

一四二三電津駐艦ヨリ敵機七機徳之島ニ南方ヨリ侵入ストノ電
誌報告アリ直ニ守備隊全地ニ空襲警報ヲ發令ス

一四二五 東南方ニ敵艦爆機一二機(グラマンTBF及カーナスSB2C)
徳之島上空ニ侵入ス抵抗ニ波トアリ唇積雲ノ間隙ヲ縫ヒテ

飛行場ヲ其ノ周邊ヲ銃爆撃シ又伊仙附近ニ投彈シ電津
電徳附近ノ民家ヲ銃重ス

是ヨリ先沖永良部島ニ向ヒ一三五〇山港ヲ出發シ曉部隊徳之島出
張所徵用船和泊丸及船舶工兵第三六聯隊第三中隊長長良少
尉指揮ノ發動艇二隻八一五〇井之川沖東經一二九度三分

北緯二七度四七分海面ニ於テ突如南方ヨリ北進スル敵艦載機
グラマン七機ノ機銃掃射ヲ受ク直ニ進路ヲ陸岸ニ向ケ全速
カニ進行ス敵機ハ執拗ニ機銃掃射ヲ又反覆セリ

第二面目ノ掃射ニ機関部火災ヲ生シ炎上シツ海岸ニ向ヒ急進
ス斯クテ船ハ井之川海岸ニ坐礁ス此間敵機ハ第三第四
面目ノ機銃掃射ヲ加ヘ和泊丸ニ乗船中ノ沖永良部島地區

地區隊長吉岡少佐ハ頸部ニ貫通銃創ヲ受ク兵四名 船員一名ト共ニ
壯烈ニ戦死ヲ遂グ旅團司令部高級部員中溝中佐 高級主計多
田主計大尉及兵一船員二員傷ス(西將校ハ輕傷ナリ) 此間
長良少尉ハ沈着機銃ヲ制シ旋回機銃ヲ以テ射撃セシモ銃ニ故障
ヲ生シ兵一員傷ス

一方西方海岸ニ於テ八一四〇平土野出發沖永良部島ニ向ケ航行
中ノ船舶工兵第三六聯隊第三中隊加藤少尉ヲ指揮スル發動艇
二隻八一四三五秋利神川西南方約二五ノ地矣於テ飛行場
方向ニ黒煙ト上ルヲ発見シ直ニ航路ヲ陸岸ニ近ク變更急進ス
一五〇敵グラマン四機來襲爆彈ヲ投下基津艇ニ向ヒ先ツ急
降下銃毀手ヲ行ヒ基津艇ハ遂ニ火災ヲ生ス

加藤少尉ハ沈没ニ類スル舟艇ニテ沈着指揮セルモ遂ニ兵二名ト
共ニ壯烈ナル戦死ヲ遂ゲ斯クテ敵機八一五三〇徳之島上空ヲ
去リ敵ノ飛行場ニ投下セル爆彈ハ三四發(滑走路六發内不發
一場内二八發)内不發四及附近部落ニ發シテ漏斗孔ハ主トシテ
概テ直全一〇米深サ約四米一節ハ小型油脂燒夷彈ナリ

又偽飛行機ヲ銃撃セリト具飛行機ハ遮蔽及偽裝効ヲ奏シ一
發ノ銃撃ヲ受テズ 彈痕補修ハ飛行場中隊主力及
第五二特設隊言備工兵隊主力之ニ任ジ二十三日ニ滑走路ノ
補修ヲ完了セリ

沖永良部島地區

一三〇クラマン六機侵入旋回復察後一三〇南方ニ脱去ス
一月二十三日 來襲機最少ニ依リ守備隊長八一三三五空襲警
報ヲ解除ス

二德之島及大島本島ニ於テ敵機ノ航跡圖要圖第一第二
第三ノ如シ

三井之川海岸附近ニ於テ戰鬥經過要圖第四ノ如シ

四秋利神川河口附近ニ於テ戰鬥經過要圖第五ノ如シ

五飛行場被彈狀況西要圖第六ノ如シ

六敵機ノ攻撃法及機種
ノ攻重法

中夜ヨリ侵入レ急降下爆撃ヲ又ハ銃撃ヲ行ヒ直々ニ中空ニ上昇

附錄

昭和二十年一月二十五日

一月二十日空襲ヨリ得タル教訓ノ兩項ニ對スル所見ノ要旨

奄美守備隊司令部

目次

第一 緒言

第二 所見

第三 結論

附錄

一 德之島ヨリ南方要點ヘ距離

二 米軍飛行機航續距離拔萃

三 戰備ノ度

第一 緒言

各隊より提出スル「月二十日空襲」ヨリ得タル教訓「中六守備隊戦」
ナリ強化上参考トスベキモノ多シ

其中、二項目ハ極メテ卒直ナル意見ニシテ左ノ如シ

□(一) 警報ト状況判断ニ就テ

一〇、一〇空襲時、教訓、如ク午前中、来攻機ハ偵察乃至小

襲機、攻撃ニシテ、数時間、後第二次攻撃ヲ必至ト判断シ空

襲警報態勢ヲ續行スルハ必要切ナルモノアリ

□(二) 敵機種ニ依ル警報解除又防空態勢ニ就テ

敵機、種別即チ艦載「グラマン」機等ニ於テハ敵機動部隊

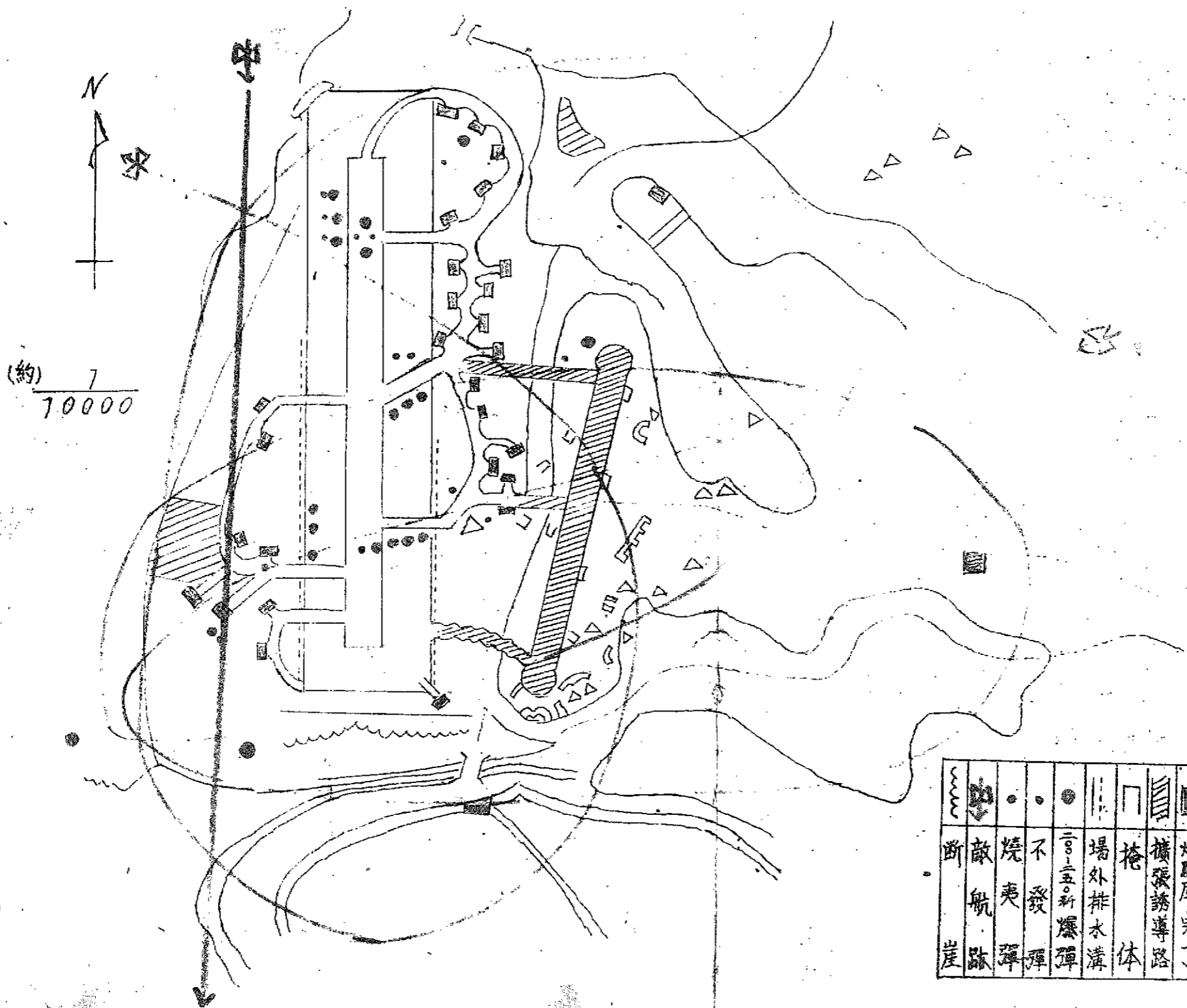
接近シ行動半径ニ於テ再度攻撃シタルト必至ヲ豫想判断シ

波状攻撃ヲ覺悟セザルベカラズ

從テ空襲警報解除ハ一考ヲ要ス

從空襲警報解除ハ一考ヲ要ス

飛行場被彈狀況要圖 敵機航跡圖



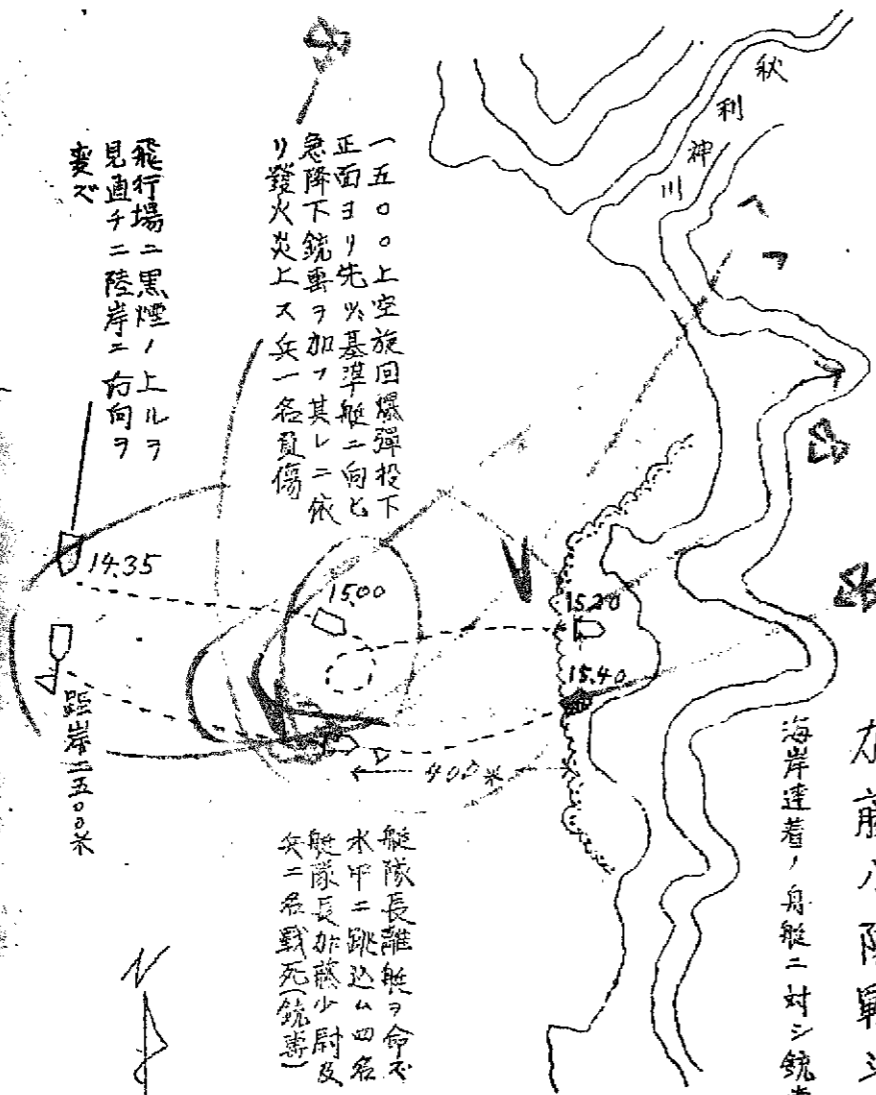
斷崖	敵航跡	燒夷彈	不發彈	新爆彈	場外排水溝	掩體	擴張誘導路	燃庫完了	三角兵舍	洞窟	掩體完了	鋼裝完了
----	-----	-----	-----	-----	-------	----	-------	------	------	----	------	------

(約) 1/70000

船舶工兵第二十六聯隊第三中隊

加藤小隊戰鬥經過要圖

海岸達着ノ舟艇ニ対シ銃密ヲ加フ



一五〇。上空旋回爆弾投下
正面ヨリ先以基準艇ニ向ヒ
急降下銃垂ヲ加フ其レニ依
リ發火炎上ス兵一名負傷

飛行場ニ黒煙ノ上ルヲ
見直チニ陸岸ニ右向ヲ
變セ

艇隊長離艇ヲ命ズ
水中ニ跳込ム四名
艇隊長加藤少尉及
兵二名戰死(銃毒)

裝備

旋回機銃 二

九九式短小銃 一七

射耗彈

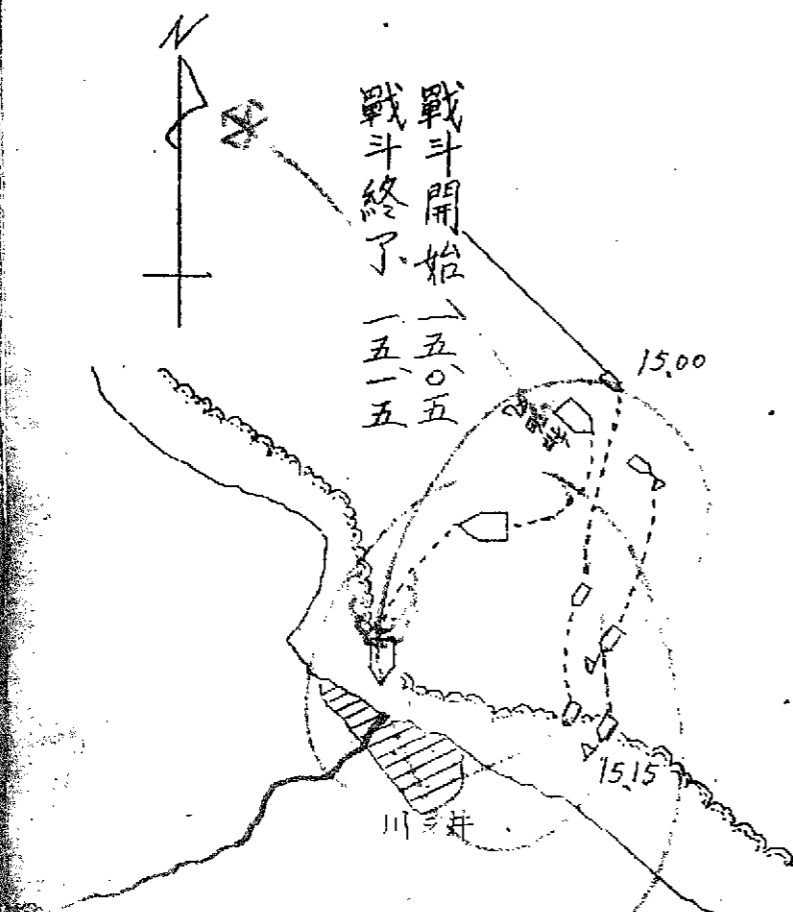
旋回機銃 二二

九九式短小銃 七二

(約) 1 / 25000

附圖第四

船舶工兵第二十六聯隊第三中隊
長良小隊及機帆船和泊丸戰鬥經過要圖



戰鬥開始 一五〇五
戰鬥終了 一五一五

裝 備

旋回機銃 一

九九式短小銃 三

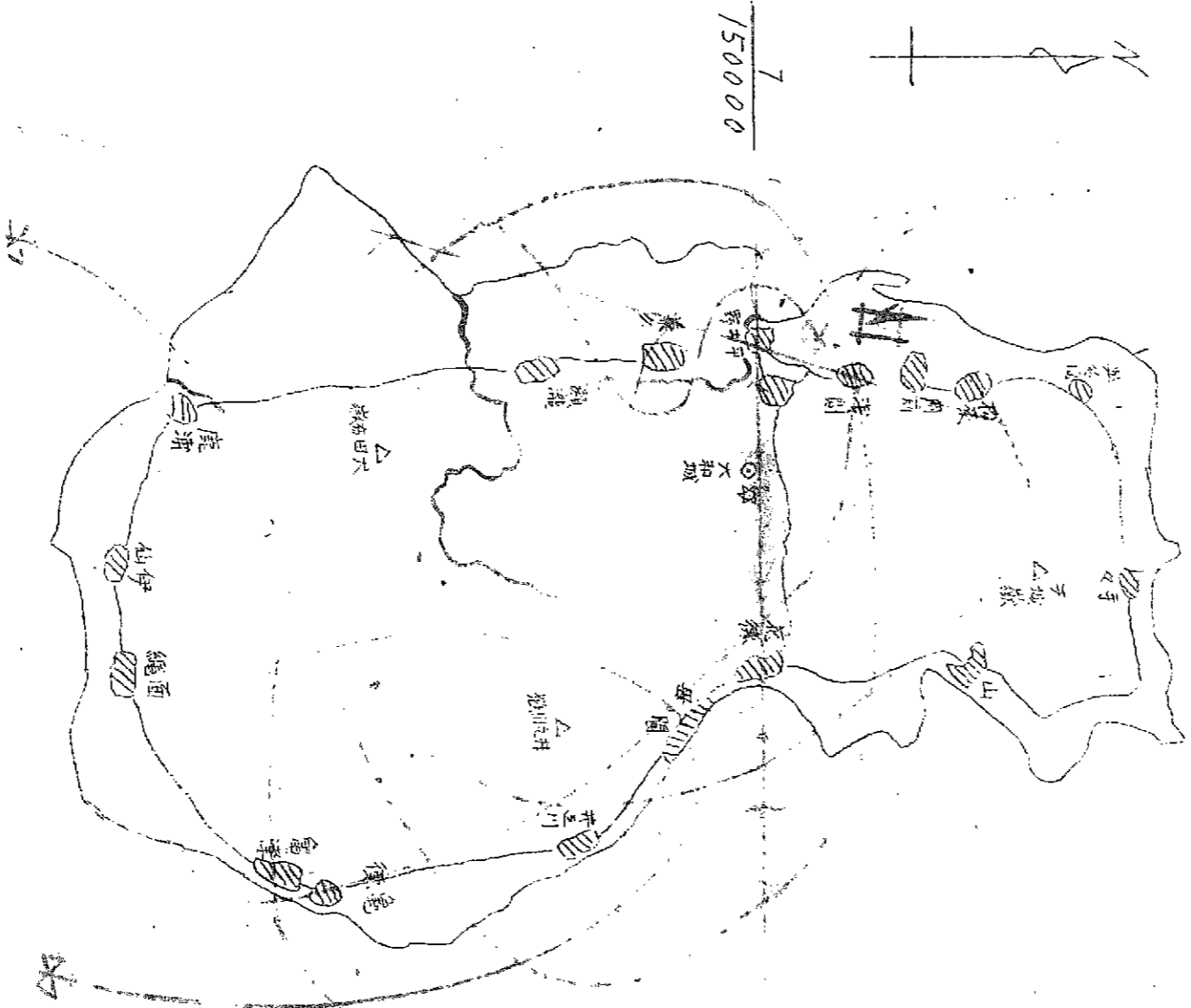
射耗彈

旋回機銃 三五發

九九式短小銃 六二發

約 7
25000

附圖第一
德之島敵機航跡圖



例凡

附表第五

一二三空襲糧秣損耗表

品目	員數	箱呼	品目	員數	箱呼
乾パン	四	箱	ビタミンB錠	九〇	箱
玄米	六〇	箱	救急食	一〇六五	〃
粉味噌	二四八	〃	煙草	五七六〇	本
粉醬油	八	〃			
食塩	三	〃			
携帶燃料	二	箱			
尋常罐詰	一四四	箱			
食用油	一五三	〃			
梅干	一五四	〃	備考		
茶	一二	〃	以上和泊丸積込品及舟		
晒若布	九八	〃	艇乗員ニテ燒失海没		

備考 以上和泊丸積込品及舟艇乗員ニテ燒失海没

一二二空襲被服損耗表

品目	員數	摘要	品目	員數	摘要
略帽	九	和泊丸及舟	雜囊	一九	
夏衣	一二	艇發火沈	卷脚絆	一三	
夏袴	一五	没三燒失	編上靴	一六	
帽章	五	及流失	携帶天幕	三	
略袴	五	以下同	背囊	一	
夏襦袢	一六		靴下	五五	
夏袴下	一七		襟布	一八	
雨外套	一八		手袋	一三	
毛布	三八		除毒包	九	
九九式被甲	一九		階級章	二八一三	
水筒	一三		計	三四六〇	

一、二、空襲兵器損耗表

品目	部隊別	球	七	一	五	六	曉	六	七	四	四	計	摘要
九九式短小銃		一	〇	〇								一〇四	被彈發火二依ル
三十年式銃劍		一	一	一								二一八	搭載兵器及携帶兵器燒失
鐵製大發動機					四							四	沈没二大破一小破三
計					一	五						二二六	

附表第二

一、二、二空襲兵力損耗表

計	平土野大發	小港		出港船別		戰死	計	將校	戰傷	計
		計	大發	和泊丸	別					
二	一	一		一		將校				
六	二	四		四		兵				
一		一		一		船員				
九	三	六		六		計				
二		二		二		將校				
七	五	二		一		兵				
二		二		二		船員				
一	五	六		一		計				

備考尚和泊丸乘組員八船長以下七名あり

附表第一

一二二空襲射耗彈

品目	部隊名	球	曉	球	計
九九式普通野砲		三〇	八八	三七四	四九二
八九式砲回機銃實砲				二三八	二三八
三八式野砲榴彈甲彈藥筒				一	一
三年式復動信管				一	一
合計		三〇	八八	六一二	二七三

6. 特設警備工兵隊未教育兵、夜間ニ於テ補修作業ハ良好ニシテ
隊長以下自信ヲ得タルモノト認ム
7. 部下、卒直ニ戰訓意見ニ對スル説明ハ附録一、ニニ空襲
ヨリ得タル教訓、兩項ニ對スル所見、要旨、如シ

2. 機種

カーチス 艦載爆撃機 (B2C) 及グラマン 艦載機 (A4E 及 TB7) ト
判断セリ

5. 敵潜水艦ノ状況

本空襲前夜、潜水艦出陣ノ情報ニ接セザシモ、當日晝間ニ二〇五
一三三五 及空襲直前、津沖合東方ニヨロ米ニ浮上又同夜ニヨロ
頃、夜火信號ヲ行ヒ尚信號彈ヲ發射セリ

六. 戦果

連墜 一機 (喜界島海軍防備隊高角砲)

七. 射撃彈附表第一ノ如シ

八. 我方ノ損害附表第二三四五ノ如シ

九. 地方官民関係事項

大島本島地区ノ警戒戒嚴報告發令ハ、民情報トシテ平土野郵便局
ヨリ速ニ通報ヲ受ク

2. 第二次空襲時敵機侵入ヲ迅速適切ニ遠報セハ、電津警言察

署ナリ

3 住民ハ前回一九一〇〇〇ノ空襲ニテ経験及防空演習等ニ依リ
積極的ニ防空ニ注意シ又流言ニテ抗テ沉着行動セルモト認ム

10 戦訓及將來参考ニシテモテ
日本ノ空襲ハ疎トシテ一〇〇空襲ト同様ニ前偵察ニ后本格的
空襲ニ毎夜モリ 但シ今回ハ飛行場ノ爆撃ヲ主トシ尙附近

航行中ノ小船ヲ求テ銃撃セリ

2 海上ニ於テ大鼓動艇及筏帆船等ノ損害アリタルハ遺憾ナルモ
陸上ニ於テハ特ニ報告スベキ損害ナシ

是ニ回ニ互リ容員ヲセラル徳之島全軍官民綜合防空訓練ニ負フ
所大ナリト信ス

3 一〇〇空襲ニ鑑ミ敵ノ航路ヲ良ク射撃シ得ル如ク飛行場附近ニ
重砲陣地ヲ占領シテ敵ノ避ケテ行動ニ遂ニ撃墜スルヲ
得ザリキ 然レドモ我飛行機ニ對スル爆撃等適切ナラザレテ
撃墜陣地占領ノ價值ハ大ナリシモト認ム

4 飛行機ノ分散態モ亦効果大ナリシモト認ム

B29ノ如キ遠距離爆撃機ニアリニハ基地遠隔ニ爲空襲地點ニ對シテ
ハ大風一過的攻撃ニテ警報解除ハ敵機ノ脱去直後又ハ一二時
間後ニ於テ實施スルモ可ナリ

守備隊長ハ此ノ着眼ニ對シテ表シ此卒直ナル意見ニ感謝ス
此ノ卒直ナル意見ニ對シテハ直ニ卒直ニ説明スルヲ適當ト認ム

諸官承知通り高級部員ハ戦傷入院中ニ付守備隊長直接
説明ス 尙高級部員ノ負傷ハ輕傷ニテ日ヲラス退院見
込ニ付安心ヲ乞フ

第二 所見

空襲警報ヲ解除ノ際「當日或ハ再度空襲アルヤモ計ラレズ
モナキヤモ計ラレズ
但シ全般ノ狀況特ニ和泊丸ノ出帆ヲ考慮シ解除スルヲ適當
ト認ムト判断セリ

「何故今日ハ全クナカルベシト思マシテ待タザリシヤ」
待チ得ザリシナリ

何故ニ...

和泊丸ハ當日沖永良部島へ向テ一三〇〇公噸ノ豫定ナリシモノ五
敵機徳之島ヲ通過セルニ依リ出帆待テヲ命ゼリ

之ヲ何時解除スベキヤハ問題ナリキ

任務ハ決心ノ基礎ナリ

和泊丸ハ次ノ任務ヲ有セリ

「和泊丸ハ二十六日名瀬ニテ徴兵検査ヲ受クベキ沖永良部島壯丁
ヲ検査ニ間ニ合フ如ク名瀬ニ輸送スベシ」

故ニ和泊丸ハナルベク速ニ和泊港へ送ル必要アリキ

和泊丸ハ山港ヨリ和泊港マデ當日ノ天候ニテ約六時間半ヲ要
スル見込ナリ

到着後ノ人員、兵器、材料等ノ揚陸ヲモ考慮シ遅クモ一三〇〇ニハ
出帆ヲ要セリ

守備隊長ハ機米一三三〇迄ハ送ルベシト考ヘテ

尚奄美守備隊全地區ニ發シタル空襲警報ナリシヲ以テ奄美
地區ノ全對空射撃部隊ガ戦闘配置ニ就キ其他ノ部隊モ

警警戒連絡等ノ處置ヲ講ジ又砲爆撃ノ損害ヲ蒙ラサル爲洞

窟内ニ在リテ他ノ業務ニ服シアザルコトヲモ考慮セリ

一三〇〇頃ニハ其ノ迄ニ到着セル電報全部ヲ翻譯ヲ終リ知リ得

タル情報ノミニテハ空襲警報ヲ繼續スルヲ要セザリシナリ

空襲警報ヲ解除セル場合ハ別命ナク警警戒警報ニ移リ丙號

機備ヲトルモノニシテ空襲警報ヲ解除スルモ警戒ハ嚴ニ實

施セラルナリ 勿論最初ニ述ベタル戦訓ノ意見ハ考ヘザリシ

ニアラバ 吾等口常ニ考ヘ居タルコトニシテ熟慮ノ結果「解

除ト決心セルナリ

其レ程迄ニ考ヘテカク何故ニ大幕ヲトツテ解除ヲ暫ク待タザリ

シヤマ、

續イテ敵ノ空龍衣ニシテ場合、本日午後以後何時ノ公算最モ

大ナリマヲ考ヘタルナリ 而シテ守備隊長ハ本日午後出

帆ヨリ明日午前出帆ヲ一層危険ト判断セリ 而カモ和泊丸ハ

一トモ早ク和泊港ニ到着スルヲ要スル状況ニアリキ 而シテ此ノ状

況が一兩日續ク場合ヲモ考慮シテ決心セリ

而シテ爲サバルナリ 遲疑スルナリノ内ニ和泊丸ヲ山港内ニ撃沈

サレレ公算ナキニアラズ

意島ヨリ安全ナル沖永良部島ニ速ニ避難セシムルヲ良策ト判

断セリ 出帆シテ今度ノ結果トナリテハ甚ク相済マスフトト

ナレドモ和泊丸が伊仙海岸ヲ離ル、時機ハ敵機來襲算

最モ少キ時刻ナルヲ以テ思ヒ切り出帆セシメタリ 若シ途中ニテ

敵機來ラバ機先ヲ制シテ撃隊スレバヨシト考ヘ居リタリ

撃隊出來ストモ攻撃精神、敢闘精神ヲ發揮シ射撃

スルニ於テハ敵ハ近寄り得ザルベシト判断シ居レリ

トハ戦訓ノ教フル所ナリ

敵ガ銃撃態勢ヲトツテ我ニ向ヒ來タル時見敵必殺ノ精神ヲ

振起シ機先ヲ制シテ一發必中ノ射撃ヲナサバ敵ハ沈着シテ

射撃スルヲ得ズ間モナク逃走スベシ (我ニシテ射撃セ

ザルトキ敵ハ沈着シテ何回モ有効射撃ヲナシ我損害増

大スルハ幾多戦訓ノ示ス所ナリ)

但シ濫射シテ彈藥ヲ浪費スルハ不可ナリ

必中射撃ヲ至短時間實施スベキナリ

斯ルコトヲモ考ヘ和泊丸ハ大丈夫ト信シ出帆セシメタリ

昨年

末本職古仁屋ニ出張ノ際當番ニ銃ト彈藥トヲ携行セ
シノ對空射撃準備ヲ命ジ航海セリ 當時ハ丁號戰備
ナリシニ、丁號戰備下此心掛ケヲ必要トスル所ニ奄美
地區ノ特色アリ 即チ比律賓作戰後奄美地區ハ完
全ニ敵航空機ノ來襲圏ニ入レルナリ 嚴密ニ言ハバ
奄美地區ハ常ニ丙號戰備ナルヲ要スト言フモ過言ニアラス
然レドモ全般狀況ヲ判斷シテ平素ハ丁號戰備ニシメアルナリ
即チハサテ置キ日米英飛行機便覽ニ依リ米海軍戰闘
機「グラマン」機 艦上雷撃機「グラマン」機 米陸軍爆撃
機「ボイニング」機「フンソリ」機「テッド」機「イノース」機「アメリカン」機
等ノ航續距離ト徳之島ヨリ南方ヘノ距離トヲ比較研究
セバ思ヒ半バシ過グベシ(附録一ニ參照)
即チ取リ越シ苦勞度ニ過グルトキハ奄美地區ハ全ク航海出來

ザレバ萬全策ヲ講ジ任務ニ邁進スルトキ必要最小限ノ航海ハ
確保セラルベシ 正確確保セザルベカラザルナリ、 此ノ信念ノ下ニ
當日空襲警報ヲ解除セルナリ

第三 結論

以上述べタル所ハ卒直ナル所見ニ對シ 卒直ニ答ヘタルソミナラス本日
以後ノ戦力強化ニ直チニ影響スル所大ナルヲ思ヒ忌憚ナク所
信ヲ披瀝セルニ過ギズ 敢テ過去ヲ責ムニアラス 又自己ヲ辯
解スルニアラス 眞ニ守備隊強化ノ爲ニ微衷ヲ述ベタルノミ
虚心坦懷之ヲ聽キ本日以後ノ戦力ヲ培ハンコトヲ切望ス
尚徳之島ノ周邊ニハ常ニ敵潜水艦アリ守備隊ハ行動上防
牒ニ細心ノ注意ヲ要スレコトヲ附言ス

附録

一徳之島ヨリ南方要點ヘノ距離

1. 臺灣南端、東方約八〇〇浬、海上ハ徳之島、南方約七〇〇浬
 2. ルソン島北端、東方約七〇〇浬、海上ハ徳之島、南方約一〇〇〇浬
 3. コレイテ島、タクロバン飛行場ハ徳之島ヨリ約一八〇〇浬
 二米軍飛行機航續距離拔萃

機種	航續距離
グラマン艦載戦闘機	最大一、八〇〇浬
グラマン艦載雷撃機	二、三〇〇
ボーイング B17	六、〇〇〇
コンソリデータード B24	七、五六〇
ノースアメリカン B25	五、一八一

三 戦備ノ度

甲號戦備 敵有力部隊、上陸(著陸)攻撃、虞アル場合ニシテ
 全部隊戦闘配置ニ就キ、随時戦闘ヲ開始シ得ルノ準備
 ヲ整フルモノトス

乙號戦備 敵、上陸(著陸)ノ算少キモ空襲又ハ砲撃ヲ受クル
 虞アル場合ニシテ各部隊ハ對空並ニ海上警戒ヲ嚴ニシ所要ニ
 應ジ監視哨ヲ増加スルト共ニ水際戦闘ノ準備ヲ整ヘ對空
 射撃ニ任ズル部隊ハ全隊戦闘配備ニ就キ爾餘ノ部隊ハ
 警戒連絡、處置ニ遺感ナキヲ期シ砲撃ノ損害ヲ被ラ
 ザル如ク掩蔽ス空襲警戒報發令セラレタ時ハ別命ナク本
 戦備ニ移ルモノトス

丙號戦備 敵機動部隊近接、微アルカ又ハ敵飛行機、潜水
 艦偵察ノ虞アル等警戒ヲ強化スルノ要アル場合ニシテ各部隊
 ハ對空並ニ海上警戒ヲ嚴ニスルト共ニ對空射撃ニ任ズル部隊ハ

一部ヲ以テ戦闘配備主力ヲ以テ警戒配備ニ就キ爾餘ノ部隊ハ迅速ニ掩蔽下ニ待避シ得ルノ準備ヲ整ヘ特ニ我が配備兵力等ヲ暴露セザル如ク留意スルモノトス 警戒配備報

丁號戰備

我が哨戒圏及電波警戒圏内ニ敵ヲ認めザル

場合ニシテ各部隊ハ主トシテ對空及海上監視哨ニ依リ

警戒ヲ行ヒ爾他ハ教育訓練築城交通作業其ノ他ノ勤

務ニ從事ス

但シ常ニ敵ノ奇襲攻撃ヲニ對應シ得ル如ク所要ノ準備ニ

遺憾ナキヲ要ス